日本脳炎ワクチンは 13歳になるまでに合計4回の接種を 完了させることが大切です！

日本脳炎ワクチンの標準的な接種開始時期は3歳ですが、生後6か月から接種が可能です。リスクに合わせて接種のタイミングを検討しましょう。

標準的な接種タイミング

1回目 3歳 ▶ 2回目 6～28日の間隔をあけて → 3回目 4歳 → 4回目 9歳

生後6か月から接種可能 ▶ 7歳半 ▶ 9歳～13歳未満まで接種可能

参考：日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール（2024年10月1日版）
（https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20241017_vaccine_schedule.pdf）アクセス2024年11月

以下に該当する方は接種を控えてください

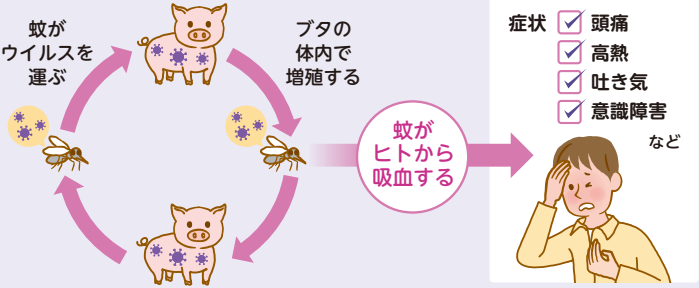
- 37.5℃以上の発熱がある人
- 急性の重い疾患にかかっている人
- 過去に日本脳炎ワクチンを接種してアナフィラキシー※を起こしたことがある人
- その他、医師が予防接種を行うことが不適当だと判断した人

※アナフィラキシー
全身性のアレルギー反応で、通常、接種後約30分以内に起こることが多い。
顔が急に腫れる、全身にじんましんが出る、息が苦しい、吐き気、嘔吐、汗がたくさん出るなどの激しい全身反応。

監修：宮﨑 千明 先生 福岡市社会福祉事業団 医療主幹

日本脳炎はどんな病気ですか？

日本脳炎は、蚊によって媒介されるウイルス感染症で、重篤な急性脳炎を引き起こします。発症すると、特異的な治療法がありません。



- 100～1,000人に1人程度が発病
- 発症後の死亡率は20～40％
- 回復後も45～70％で麻痺などの後遺症が残る

国立感染症研究所 日本脳炎とは より

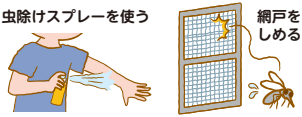
日本脳炎にならないためにはどうしたらいいですか？

日本脳炎はワクチンの接種、蚊に刺されない工夫をすることで予防することができます。

日本脳炎ワクチンの接種

ワクチンを接種することで、
日本脳炎にかかるリスクを
75～95％減らすことができます

蚊に刺されない工夫



日本脳炎ウイルスを運ぶコガタアカイエカは
日没後に活動が活発になります

厚生労働省 日本脳炎ワクチン接種に関するQ＆A（平成28年3月改訂版）より

日本脳炎は日本だけの病気ですか？

日本脳炎は日本だけの病気ではありません。世界的にはアジア地域を中心に、年間6万8,000人ほどの患者さんが発生していると推定され、約1～2万人が亡くなっている病気です[1)]。日本以外の発生国に1カ月以上滞在する場合や、滞在期間が1カ月未満でも、流行地への旅行や農村部で積極的な戸外活動を行う渡航者などにはワクチンの接種が勧められます。

1) WHO. Fact sheets. Japanese encephalitis.
(https://www.who.int/en/news-room/fact-sheets/detail/japanese-encephalitis)
アクセス2024年9月

日本脳炎にかかる危険のある地域[2)]

2) CDC. Japanese encephalitis. Geographic distribution.
(https://www.cdc.gov/japanese-encephalitis/data-maps/?CDC_AAref_Val=https://www.cdc.gov/japaneseencephalitis/maps/index.html) アクセス2024年9月

予防接種を受けた後に注意すること

- 接種後まれに30分以内に急な副反応が起こることがありますので、しばらくの間は様子を確認し、急な副反応が起こった場合に備えて、いつでも医師と連絡が取れるようにしておきましょう。

- 接種当日は激しい運動は避けて、接種部位を清潔に保ちましょう。また、接種当日の入浴は可能ですが接種部位をこすらないように注意しましょう。

- 接種後に接種部位が赤く腫れたり、痛んだりすることがありますが通常2～3日で治ります。
- **もし、高熱やけいれん、腕全体が腫れるような異常反応、体調の変化があれば速やかに医師の診察を受けましょう。**

他にも何かご心配なことがありましたら、医師、看護師にご相談ください。

健康にアイデアを
meiji
Meiji Seika ファルマ株式会社

JE000305Ⓢ
(KK)
作成：2024.11
10M-25Y